

住 所 : 東京都千代田区紀尾井町 7-1
 ホームページ : [http:// www.sophia.ac.jp/](http://www.sophia.ac.jp/)
 教員・研究員 : 505 人 (男性 396 人、女性 109 人)
 学 生 : 11,963 人 (男性 6,333 人 女性 5,630 人)
 業 種 : 大学

1. 取り組み・支援に至る経緯・理由

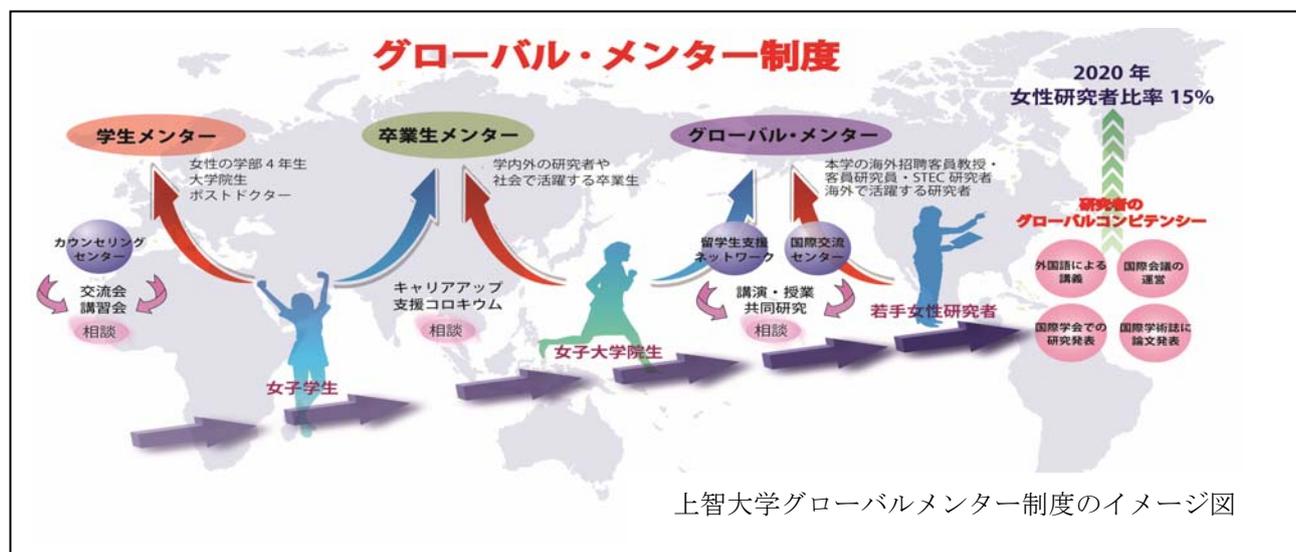
全体の女子学生比率は大学院で41.7%、大学部では54.4%である一方で、理工学部は、大学院生で16.4%、大学部生で20.6%と少ない。また、女性研究者(女性教員・女性研究員)については5%と非常に少ない。

このような中、女性研究者の増加が求められており、そのためにはグローバル社会で活躍する研究者に求められる能力(グローバル・コンピテンシー)を備えた優れた女性研究者の育成が必須である。また、その基盤づくりとして、理系の女子学生の大学院進学のための支援、及び研究職・技術職への就職支援が必要であると考えた。

女性研究者には、「研究者志望者が少ない」「就職が厳しい、ポストク等の不安定な雇用」「仕事と子育ての両立が困難」「復職が困難」といった特有の課題があるが、その厳しい状況を打破するためには、強い競争力を身につける必要がある。

また、理工学部の女子学部生・大学院生の数は、男子学部生・大学院生の20~25%であるため、専攻によっては研究室に女子学生が一人というケースも多く、次第に孤立化し、気軽な相談をすることができなくなっている。また、女性研究者・教員も少なく、将来のビジョンを考えるにあたって、ロールモデルをほとんど見つけられないでいるといった環境が、女子学生の研究者志望の障害となっている。

※研究者のグローバルコンピテンシーとは、世界で研究者として通用する能力のことで「外国語での講義」「国際学会での研究発表」「国際学術雑誌に論文発表」「国際会議の運営」に関わる能力である。



2. 具体的な取り組み・支援の主な内容

「グローバルメンター制度」「卒業生メンター制度」「学生メンター制度」の3段階のメンター制度をシステム化し、ステージの異なる女子学生、及び女性研究者といった個人の段階に応じたメンター相談が可能になり、それぞれのキャリアパスに対応した支援ができるように工夫をした。

制度をスタートするにあたりアンケート調査を実施し、期待する相談内容、相談形式、メンターの性別、身分について分析した上で制度の構築を行った。その結果、メンター相談の必要性や国際的に活躍している研究者にメンターになって欲しいという意見が多くを占めたこともグローバルメンター制度の導入につながった。

メンター登録者の管理、メンター相談の受付等については女性研究者支援事務局が、マッチングに関してはメンター担当の教員と女性研究者支援事務局が行っている。

名称			グローバルメンター制度		卒業生メンター制度		学生メンター制度
			女性	男性	女性	男性	女性
メンターの累積人数			6人	2人	8人	2人	9人
メンティの累積人数			3人		5人		15人(グループ相談)
直近1年の取組	メンター	層	中堅社員、准教授	教授、助教	学部4年生、大学院生	教授、准教授	中堅社員、准教授
		人数	8人	2人	9人	2人	8人
	メンティ	層	学生		理工学部学生		理工学部学生
		人数	5人		15人		5人
1タームの運用期間			12か月		12か月		12か月
メンティの選考方法			自己応募型		自己応募型		自己応募型

(1) グローバルメンター制度

提携している交換留学協定校との学術交流や、研究者個人のネットワークにより構築された研究者同士の信頼関係を基盤として、国際的に活躍している一流の研究者をメンターとする制度である。これにより学問領域に応じた学術交流・相談を個人レベルで行うことが可能になり、発展することで共同研究のチャンスが広がると期待される。さらに、国際社会で活躍する研究者から身近に意識啓発を受けることによって、女子学生や女性研究者が意欲的にキャリアアップを図ることができるようになる。メンター相談は直接面談の他、電子メール等を利用するが、現地での国際共同プロジェクトの会議やシンポジウムにおいては、テレビ会議システムを使用し、多数の研究者や学生が参加できる。

その他、グローバルメンターによる女子学生キャリアアップ支援コロキウム、グローバルメンター交流会、グローバルメンターによるグループ相談会を実施し、個別相談に先立つ、気軽に相談できる機会を作っている。

(2) 卒業生メンター制度

学内外の研究者や社会で活躍している本学卒業生(男性、女性)がメンターとなり、女子学生の個別相談、特に進学や就職、キャリア形成についての相談を受ける。定期的で開催している女子学生キャリアアップ支援コロキウムでの卒業生メンターの講演、フリーデ

ディスカッションによるメンターへの触れ合いが、個別相談のための導入となり、メールによる学外メンター相談へと結びつけている。

(3) 学生メンター制度

学部4年生以上の女子学生・ポストドクターがメンターとなり、下級生の相談に個別、またはグループで応じるシステムである。研究室に所属する学生の中から自ら志願した学生をメンターとしている。グループ相談から始めてシーズン毎にテーマを設けて実施し、今後は個別相談へと発展させる予定である。ただし、個人情報の扱いや面接の経験が少ないことを考慮し、学内のカウンセリングセンターによるメンター講習会を定期的に行いサポートする。また学生メンターという事を考慮し、カウンセリングセンター、教員、女性研究者支援事務局がサポート体制をとり、トラブルに迅速に対応できるように工夫した。

3. 取り組み・支援による具体的効果

(1) グローバルメンター制度

世界各国の研究者をメンターにすることで、学問領域に応じた学術交流や相談が個人レベルで可能になっている。現時点では、メンティである女性研究者教員とメンターとの「細胞分化、分子進化」に関する国際共同研究に向けて、具体的な研究計画についての議論が始まっている。メンターとの交流により、国際社会で活躍する研究者から身近に意識啓発をうけ、国際舞台に踏み出す足がかりとなっている。2010年メンターの所属する米国の大学にメンティとして女性研究員(PD)を派遣し、ワークショップに参加させた。国際学会での発表支援のため、グローバルメンターの協力により学生企画によるワークショップを実施し、その後、個別相談会を開催する予定(2010.3)である。

(2) 卒業生メンター制度

相談方法の基本を電子メールとしているため相談件数は少ないが、自分自身の働き方について考える機会をキャリア教育の中に組み込むことは重要だと考えられることから、本制度がメンター相談をとおしたインフォーマルな教育の場となる。

(3) 学生メンター制度

メンターが学生ということ相談や面接の経験が乏しいこともあり、メンター講習会を必要に応じて実施している。この講習会では、実践的スキルの習得だけではなく、自らを見つめるという体験を取り入れており、自己形成における教育の場となっている。現在は学生メンターの育成が始まったばかりということもあり、グループ相談会からスタートしているが、非常に好評で、メンターとなった女子学生も役割の重要性を認識し、大変興味を持って活動している。

また、波及効果として、留学生をメンティとする相談も発生している。約1000人の留学生は、国籍、年齢、経歴が多様であるため、うまく人間関係を築けない場合もある。学内のシステムを中心とした教職員のフォローだけでは十分とは言えないため、本制度を活用した支援を始めている。

本学機関や研究者がこれまでに培ってきたネットワークとリソースを活用し、新たなコストを大幅に増やすことなくグローバル社会で活躍するための国際感覚や研究者意識を身に付けることで、他に例のない女性研究者支援としての効果を期待しており、他機関のモデルとなるものと考えている。